

社会・環境報告書 2013

Corporate Social Responsibility Report



CONTENTS

ご挨拶 02

特集 03

1 会社概要 07

企業理念 07

会社概要 07

売上 07

ネットワーク 08

技術革新 09

2 社会性報告 11

コーポレートガバナンス 11

コンプライアンス 12

調達 13

従業員に対する取り組み 14

安全活動 16

防災活動 16

社会・地域貢献活動 17

お客様との関わり 19

品質向上を実現する取り組み 19

3 環境報告 20

環境理念 20

環境方針 20

環境への取り組み 21

化学物質の情報管理 24

環境対応製品事例 25

環境リスクマネジメント 27

環境教育・環境啓蒙 28

■報告期間

本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2012年度(2012年1月1日~2012年12月31日)の活動実績をもとに作成

※2011年度以前・2013年度の内容も一部含まれます。

■対象範囲

株式会社イノアックコーポレーション

※1:特集の対象範囲は海外のイノアックグループを含みます。

※3:環境報告の対象範囲は下記の通り株式会社イノアックコーポレーション(安城事業所・桜井事業所・船方事業所・八名事業所・南濃事業所・池田工場・池田第二工場・大野工場・本社(名古屋)・東京支店・大阪支店)株式会社イノアック住環境の一部を含みます。

■参考とするガイドライン

「環境報告書ガイドライン2012年度版」を参考に作成

ご挨拶

「すべてに革新、すべてにグローバル」をテーマに 3S(Simple, Slim, Speed-up)の実現を目指します

2012年はまさに変化の年でありました。国内経済については、前半、東日本大震災やタイの大洪水から立ち直りをみせ始めましたが、後半には、日中関係の悪化等の影響もあり成長は鈍化しました。海外に目を向けますと、主要各国で指導者が代わり、経済情勢においては、欧州では債務危機からの脱出がかなわず信用不安が継続する中、これまで世界の景気を牽引してきた中国の成長が鈍化。一方で、中国経済の失速に伴い、東南アジア市場が注目を集め、アメリカではシェールガス開発など景気回復への兆しがみられました。

このような不透明で混沌とした環境下において、2013年は、欧州の信用不安の行方や中国経済の動向が懸念され、また国内においては、主要産業の海外移転に伴う国内生産の減少など、引き続き厳しい状況が予想されます。そして今後、東南アジア市場の拡大、アメリカの回復、日本の国土強靱計画等によりビジネス環境はさらに変化していきます。

変化、流動化する世界情勢に対応する為、当社では「すべてに革新、すべてにグローバル」をテーマに、3つのS=3S(Simple, Slim, Speed-up)を掲げ、業務のシンプル化、組織のスリム化、経営のスピードアップに取り組み、変化に迅速に対応できる機敏でスリムな体制の構築を目指しグローバルな事業活動を強化して参る所存です。

そのためには、グローバルに活躍できる人材の育成・登用を行い、グローバルマネジメント体制を確立し、新規素材及び部品事業の創出を通じて、新規事業・新製品による国内外事業の強化を図ります。特に海外においては、北米・東南アジアにR&Dセンターを設置し、開発スピードの向上を図り、新興国を含む海外成長市場に向けた事業の拡大と再編を実施します。また、環境変化に対応可能な生産体制を構築し、自動化の推進を行いグローバルスタンダードな生産システムの確立に注力します。

当社が日本で初めてウレタン技術を導入して以来、当社のウレタン事業の歴史は60年を迎えようとしております。また東南アジアにおいても長い事業の歴史があります。当社の強みである発泡品事業においては、グローバルNo. 1メーカーを目指し、海外においては、長年に亘り築いて参りました海外企業との協力関係を活かし真のグローバル体制の構築に向けて邁進する所存でございます。

皆様方にはこの機会をお借りしまして、平素のご支援とご理解に心よりお礼申し上げますと共に、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 翁 豊彦



特集1

海外でのCSR活動

～イノアックグローバルCSRマップ～

1933年に井上護謄製造所(現井上護謄工業(株))がIRCブランドのタイヤチューブを輸出開始。これがイノアックグループと海外が初めてのかかわりをもった出来事です。以来イノアックグループでは現地の習慣を理解し、現地の人々とともに発展することを重視しながら、海外の様々な国や地域とかかわりを深めてきました。海外と初めてのかかわりをもって2013年で80年。これを機会に海外のイノアックグループで行われている社会・地域貢献活動を紹介합니다。

アメリカ

INTERTEC SYSTEMS, LLC(ITS-USA)

ITSは約16年前にコミュニティへの貢献として、障がいのある子供たちのためデイケアサービス、教育や両親へのアドバイスをを行う非営利団体のペンリクトンセンターのサポートを開始しました。ペンリクトンセンターは米国の大きな福祉団体や、政府からの支援を受けておらず、地域の企業や個人からのサポートで活動しているため、サポート先として選びました。ITSでは毎週金曜日のブルーローズデーに従業員それぞれが\$3、もしくは四半期あたり\$35を一括払いで寄付することにより、業務時間帯にブルーローズを着用できる特権が与えられます。また、ITSの年中行事としてゴルフ大会があり、そこでシチューを販売し、その利益も寄付しています。クリスマスには同センターのチャリティーディナーへ数名が出席し、チャリティーツリーのスポンサーもしています。チャリティーツリーには、クリスマスツリーに子供たちの個人名の入ったカードが吊るされており、カードにはプレゼントの衣服やおもちゃのリストが書かれています。ITSには年間を通してペンリクトンセンターから折々感謝のレターを頂いています。

フィリピン

INOAC PHILIPPINES CORPORATION(IPC)

IPCの環境マネジメントシステムの一環として植樹活動を実施しました。6月26日朝8時から植樹活動を行い、イノアックからは、24名が参加しました。現地のパートナーグループの社員も加わり、10時までに合計100本の木を植樹し、グループ会社同士の交流にもなって非常に有意義な活動となりました。またそのほかにも赤十字社との連携で、現地パートナー会社のトレーニングルームで献血を実施しています。従業員のみなさんは社会貢献の意識が非常に高く、皆さん自らの意志で参加していました。

献血活動▶



▲ 植樹活動

中国

上海井上高分子制品有限公司(SVI)

公安局と一緒に交通指導を行っています。工場の自家用車やバイク通勤者が増え、出退勤時の工場周辺道路の混雑が目立つようになりました。そこでSVIでは交通安全への取り組みの一環として2012年7月より公安局と一緒に交通指導活動を始めました。副総経理を隊長に10名で「交通安全隊」を組織し、毎月最終週の金曜日、朝9時から10時に工場近郊の大きな交差点にて、プレートを手を持ちドライバーに赤信号の切り替わりの注意を促す活動を行っています。



▲ 工場付近にて交通安全活動

ベトナム

INOAC VIETNAM CO.,Ltd.(IVC)

IVCでは国立ベトナム大学ハノイ校の学生5名が2012年6月25日から7月19日までの25日間、インターンシップを行いました。製造部門別チームを編成し、現地現物で不良、ロス低減手法の実習を行いました。IVCスタッフが社会人の先輩として好意的に指導する中、学生より積極的に提案が出されました。学生自身の提案の効果を実感することで、製造部門の改善に興味を持ってもらうことができました。また学校に終了証書を届けた際には、大変喜んで頂けました。今後も活動を継続する予定です。

インターンシップ参加学生▶



タイ

THAI INOAC MOLD CO., LTD.(TIM)



▲小学生とTIMのメンバー

タイにあるイノアック合弁会社のBFCグループでは、献血などの社会貢献活動を古くから実施していました。2008年8月より地域、郡部にも活動の幅を広げ、TIM単独で郡部小学校への貢献活動を始めました。現在は2年に1度活動を行っており、現在までに2008年、2010年、2012年と3回行っています。2012年2月には従業員の9割が参加し、小学校の遊具、トイレなどの施設の修繕、学内の柵の製作設置を行いました。この活動は本来、2011年秋に行う予定でしたが、タイの大洪水のため2012年に行われました。



▲小学校にて修繕活動

INOAC INDUSTRIES (THAILAND) CO.,LTD.(IIT)

CSRの研修をきっかけとして、2010年より隔月で地域貢献活動を行っています。2012年カビンプリ工業団地付近にて小規模な洪水被害が発生した際、飲料水・食料の配布と清掃活動を行いました。この地域には従業員の住居もあり、アユタヤ付近の大洪水の教訓もあったため、班長以上の有志で掃除・購入・配布のグループを構成、清掃活動では20名程が洪水で流れてきたごみ集めをし、食料を約100セット配布しました。この活動は住民の方より感謝され、今後も近隣ボランティア活動を推進する予定です。

消火活動▼

BANGKOK FOAM CO., LTD.(BFC)

■消火活動

BFCでは、工場周辺で火災事故があった場合を想定し、消防車を購入しています。この消防車は工場の火災だけでなく、近隣の火災の消火活動を行っており、2012年の間だけでも近隣の火災に10回出動し、地域の消火活動に貢献しています。また緊急の消火活動に備え、年に1度、避難訓練や応急処置訓練だけでなく、化学材料やガス爆発に対する社内訓練と、社外のターンタワン学校にて基本的な訓練を行っています。



▲タイの「母の日活動」

■バンナイポール学校との活動

仏教の国のタイでは、「カオ パン サー」文化日という、3か月お坊さんがお寺以外の宿泊が禁止になる時期があり、その際宿泊に必要なキャンドルや必需品などを寄付する習慣があります。BFCではバンナイポール学校と一緒にバンボン寺にランプや生活用品、お金などを寄付しています。

8月12日はタイの女王様の誕生日で、母の日でもあります。BFCではバンナイポール学校の子供たちに玩具や制服を寄付しています。タイでも日本と同様、この日に感謝の気持ちをこめて子供から母親へプレゼントを贈りますが、この辺りの家庭は裕福ではないことが多いため、間接的に負担を減らすことができると思い、この活動を行っています。またこの日は子供たちにお昼ご飯やお菓子を提供し、子供たちがそれを母親に渡すなど感謝を表すことのお手伝いをしています。



◀バンボン寺 仏教部文化会 (キャンドル祭り)



◀バンボン近辺の子供のケアセンターへの食事の寄付



◀◀バンボン工場周りの植樹

近隣住民も使用する工場の裏側のフェンスのペンキ塗り



東日本大震災からの 復興支援活動

～イノアックだからできること～

東日本大震災発生より2年が過ぎ、復興活動が進みだしています。イノアックでは、震災発生当時は水や食料、義援金などの支援を行っていましたが、震災後2年が経過し、震災に対する支援のあり方も変化していると考えています。一時的な支援ではなく、被災地の迅速な復興のための支援が必要な今、イノアックの製品が被災地復興のために使用された実例を担当者にお話を伺い、ご紹介します。



サーマックス

東北で活動する営業担当者にお話を伺いました



住環境本部 建材部
遠藤 正之さん

Q.1 イノアックの製品が復興に役立っているとお聞きしましたがどのような場所に製品が使用されているのでしょうか？

A プール天井に採用されています。

Q.2 どのような点が採用の決め手になりましたか？

A サーマックスは他の製品と比べて、軽量で断熱に優れています。また塩素系の薬品に対して耐薬品性もあります。

Q.3 採用に至るまでに苦労した点を教えてください。

A 地震により天井が落下した公共施設は、安全第一で天井全体を撤去して、屋根がむき出しの状況が続きました。現在は安全第一だけでなく、地球環境を考慮した改修・補修工事が進んでいます。サーマックスは、軽量で安全、また高性能断熱で環境に配慮した商品として、各官庁に信頼ある商品として理解して頂いていたのですが、震災直後の一年間は安全だけが優先され、営業展開において苦労しました。

Q.4 サーマックスを採用して頂いたお客さまからの反響はいかがでしたか？

A プール天井の実績は、12年以上経過したものもありますが、湿度が高い中でのご使用でも、張り替えする事なく、現在も施工時のまま使用しており、お客様より好評を得ています。

Q.5 今後はどのような展開を考えていますか？

A 国内プールのシェアはかなり高いのですが、市場としては小さい事もあり、新規で食品加工場天井・給食センター天井材として展開しています。

Q.6 今までに経験したことのない震災の被害修復ということで、改めてイノアック製品が地域に役立っていると実感したことがあれば、詳しく教えてください。

A 東日本大震災において、サーマックスE1天井は落下が一つも無く、お客様からお礼の言葉を頂いています。他社製品が地震により落下した中、サーマックスで仕上げた天井は、震度6の地震があった宮城県でも一枚も落下する事がありませんでした。

3.11の震災で
崩れ落ちた天井 ▶



登米市(宮城県)体育館震災後でも
天井は1枚も落下せず(サーマックス使用) ▶



(株)イノアック住環境
東北統括営業所
藤田 雅行さん

Q.1 イノアックの製品が復興に役に立っているとお聞きしましたが、どの製品がどのような場所に使用されているのでしょうか？

A 【アイポリガード】
凍結防止管としての機能を持つアイポリガードが、宮城県気仙沼市など津波被害エリアで、本管および応急仮設配管に使用されています。

A 【水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管】
住宅の灯油タンクが地震で倒れ、灯油が地下の水道管(ポリエチレン管)に浸透し、水道水の異臭が発生していました。その対策として水道用ポリエチレン溶剤浸透防止管が使用されています。

Q.2 どのような点が採用の決め手になりましたか？

A 【アイポリガード】
アイポリガードが採用の決め手となったのは、軽量、凍結防止機能、露出配管可能である点です。また、長尺で配管できるので施工時間の短縮にも効果がありました。

A 【水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管】
水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管は、他社にはない溶剤浸透防止機能が採用の決め手となりました。これにより油臭が水道水に浸透することがなくなりました。

Q.3 採用に至るまでに苦労した点を教えてください。

A アイポリガードですが、製品採用後に複数の大型案件を同時進行で進めなければならない中で計画変更、海外調達、現場施工など何十回もの役所、設計コンサルタント、現場業者等の関係各所との調整に苦労しました。

Q.4 被災地での施行はどんな点が大変でしたか？

A 被災エリアで普段よりいろいろな制約が多く、厳しい条件下での施工でしたが復旧工事を無事完了できました。製品の良さ、施工性の良さなど、お褒め戴き、採用エリアの拡大につながりました。

Q.5 今後はどのような展開を考えていますか？

A 仮復興工事に採用されましたが、現在は本復興計画にも製品が採用されるように活動しています。お客様の生活をより安全性の高いものにする為に、災害に強いインフラの供給を行います。

Q.6 今までに経験したことのない震災の被害の修復ということで、改めてイノアック製品の優れた点が地域に役立っていると実感したことがあれば、詳しく教えてください。

A 多くのイノアック製品が、人々の生活にとって大切な水などライフラインに大きく関わっていることを再認識しました。



水道用ポリエチレン溶剤浸透防止被覆管 ▲

▼ アイポリガード 橋梁添架管



社員の声

東北イノアック
渡辺 利友さん

イノアックの製品が復旧・復興支援に貢献できたことを誇りに思います。紙面の都合上、ほんの一部のご紹介となりました。すでに震災から2年過ぎましたが、まだ手つかず状態の所もたくさんあります。復興のステージに合わせ、必要なものがどんどん変化していきます。今後もタイムリーな製品提案ができるように活動していきたいと思っています。

CORPORATE PROFILE

会社概要

企業理念

一本の大きな木を育てるより、多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。

イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。

Innovation&Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団を目指します。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

行動指針

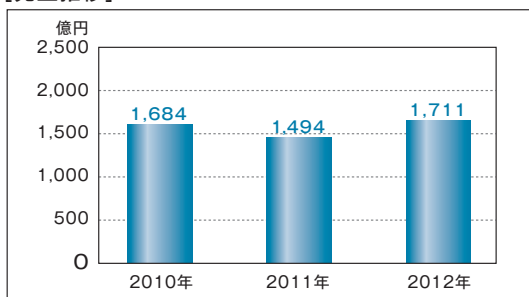
- | | | | |
|-------------|--------------------|---------------|---------------------------|
| 挑戦 | 自由に発想し失敗を恐れず行動します。 | 収益 | 継続的な事業発展と利益ある成長を目指し行動します。 |
| C S | 顧客満足度を高めるように行動します。 | チームワーク | 個性を発揮し、信頼される行動をします。 |
| 誠実信頼 | 虚偽を廃し、信頼される行動をします。 | 責任 | 責任を持って最後まで行動します。 |

会社概要

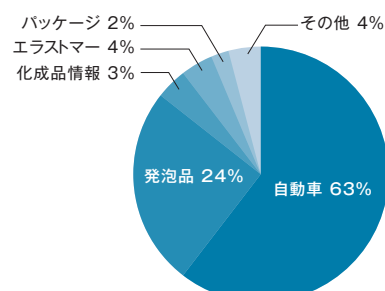
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION	本社	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
設立	1954年(昭和29年)	本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 (大崎ウエストシティビル4F)
資本金	7億2,000万円	事業所	安城事業所、桜井事業所、船方事業所、新城事業所、 八名事業所、豊橋工場、武豊工場、南濃事業所、西濃事業所
代表	代表取締役 井上聡一	主要営業拠点	営業本部、東京支店、中部支店、大阪支店、九州支店、 札幌営業所、東北営業所、浜松営業所、広島営業所
社員数	1403名(2012年12月)	研究所	株式会社イノアック技術研究所
売上高	1711億円(2012年12月)	海外拠点	北米、欧州、中国、韓国、東南アジア
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、様々な場面に密着した製品を取り扱う		

売上

[売上推移]



[2012年度事業分野別売上]

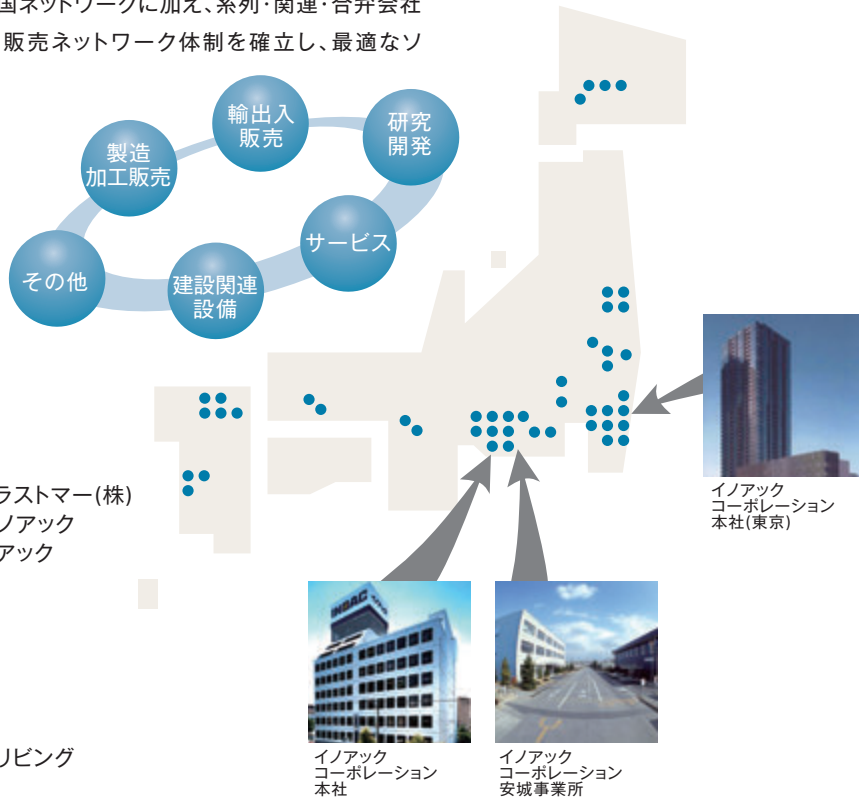




ネットワーク

国内主要拠点

(株)イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合併会社が北海道から九州まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。



- 井上護謨工業(株)
- (株)イノアックインターナショナル
- (株)イノアック技術研究所

■系列会社

- (株)北海道イノアック
- (株)東北イノアック
- (株)東日本イノアック
- イノアックエラストマー(株)
- (株)西日本イノアック
- (株)九州イノアック

■合併会社

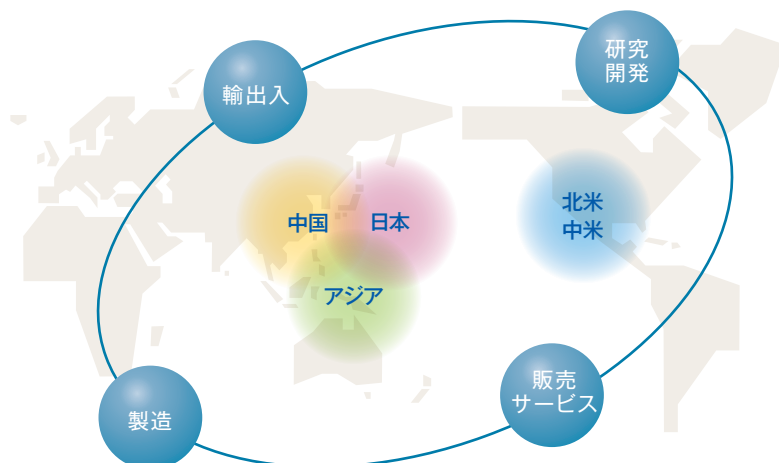
- BASF INOAC ポリウレタン(株)
- (株)ロジャースイノアック 他

■関連会社

- (株)イノアック住環境
- 日本フクラ(株) 他
- (株)イノアックリビング

海外主要拠点

北米・アジアを中心として、全世界14の国と地域で研究開発から素材の加工・成型技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。



■ヨーロッパ:1社

ドイツ:1社

■北米・中米:19社

アメリカ:13社 メキシコ:3社
カナダ:3社

■中国:28社

中国本土:27社 香港:1社

■アジア:28社

台湾:3社 シンガポール:3社
インドネシア:3社 フィリピン:1社
ベトナム:2社 マレーシア:1社
韓国:1社 スリランカ:1社

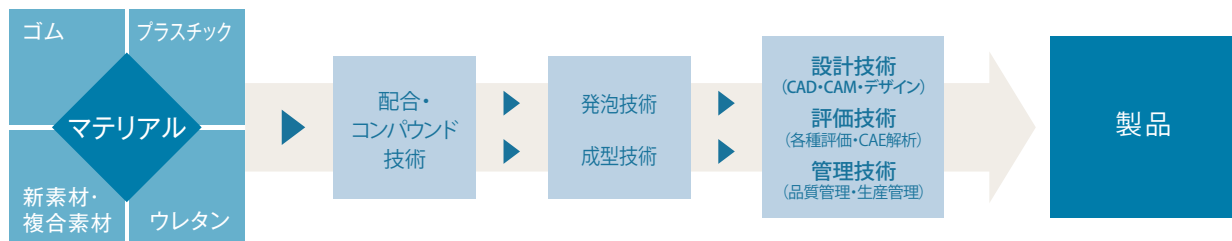
CORPORATE PROFILE

会社概要

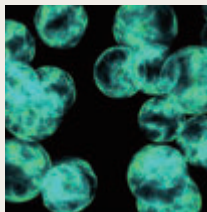
技術革新

研究開発

イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材料の技術を駆使し、自動車産業をはじめ情報通信・電子機器・産業資材・生活用品等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減化、軽量化、省エネルギー化、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。

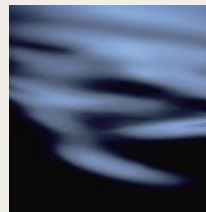


高機能ポリウレタン材料の開発



ポリウレタン樹脂の特徴である独特な反応機構と、それによってもたらされる幅広い機能設計技術と成形加工技術を駆使し、各種ポリウレタン製品の付加価値の向上と、その特徴を有した新しい応用製品の開発を行なっています。

ゴム素材、タイヤの開発



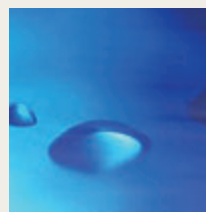
ゴム・エラストマー材料の分子設計、各種添加剤、他材料との複合効果の研究を通じ、各種工業用ゴム製品の性能向上や、新しいニーズに対応した製品の開発を手掛けています。

機能性プラスチック製品の開発



汎用樹脂、エンジニアリングプラスチック等、各種樹脂材料の特徴を把握し、ニーズに合った材料を適切に選択できる知見をベースとして、各種素材の組み合わせによる物性変化について研究し、新規分野の可能性に挑戦しています。

各種高分子材料による新規用途開発



高分子知識や加工技術の応用により、エレクトロニクス、情報機器、自動車、住宅などの用途に向けて、新しく提案できる製品の開発を行っています。

リサイクルおよび環境改善

高分子材料のリサイクルおよび健全な環境づくりに取り組んでいます。



研究体制

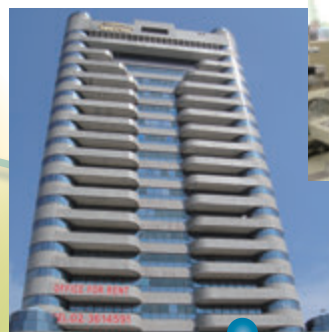
期待を超えるものづくりの実現のため、産業界の先端領域における新素材の開発を核に、環境技術、ナノ技術、安全技術についての重点的な取り組みをイノアックグループのR&D部門である(株)イノアック技術研究所で担っています。イノアック技術研究所は中国(ITC CHINA)、アメリカ(ITC USA)、タイ(ITH)にも拠点をもち、4極で作用しあえる総合R&D部門としてグローバルなネットワークで国内外の新技术に関する情報をいち早く収集し、中・長期的視点から、新規事業主体の研究開発に取り組んでいます。

また(株)イノアックコーポレーショングローバル技術開発本部にあるゴム・エラストマー、オレフィン、ウレタン、特殊ウレタン、化成品、プロセスの各技術部ではマーケットニーズに直結した技術開発に取り組み、短・中期的視点から、各部門との連携により幅広い素材の選択肢を活かした既存事業分野主体での技術開発を行っています。



ITC CHINA

(蘇州井上高分子新材料有限公司)



ITH THAILAND

(INOAC (THAILAND) CO., LTD.)

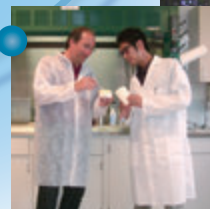
ITC JAPAN

(株式会社イノアック技術研究所)



ITC USA

(INOAC USA INC.)



2 SOCIAL REPORT 社会性報告

イノアックは、イノアックに関わるすべての人々から信頼される企業をめざします。

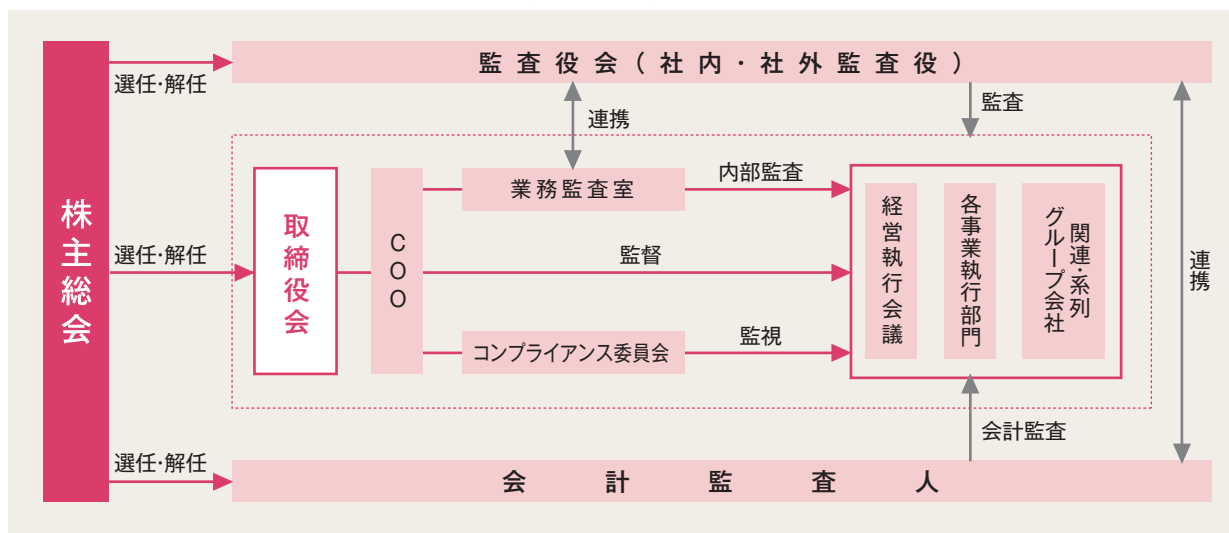
「挑戦」「CS」「誠実・信頼」「収益」「チームワーク」「責任」を行動指針と定め、社内外ともに裏表、偽りのない行動で「企業理念」を追求し、イノアックに関わるすべての人々から信頼され敬愛される企業を目指し、CSRへの取り組みを通じて社会の持続的な発展に寄与して参りたいと考えています。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックグループは企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるためにコーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けています。

イノアックグループのコーポレートガバナンス体系図（組織系統図）



■コーポレートガバナンス体制

- ◎ 取締役会：取締役会は5名で構成されており、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督に当たっています。
- ◎ 執行役員制度：経営に関する監督責任と執行責任を分離するため執行役員制度を導入し、取締役会より執行権限を移譲された執行役員が事業部、子会社および主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。
- ◎ 監査役会：監査役会は社外監査役2名を含む3名で構成されています。監査役は、取締役会等社内の重要な諸会議に出席するほか、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

■内部統制システム

職務の執行内容を法令及び定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

- ◎ コンプライアンス：コンプライアンス委員会活動と「企業行動規範」の全社員への教育
- ◎ 情報管理：文書管理規程により文書毎の保管部署、期間を定めた管理
- ◎ 企業集団としての 関連・系列会社においては、関連会社管理規定を制定。業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じ監査管理体制：役による監査を実施
- ◎ リスク管理：各種リスクに対し経営会議でマネジメントしており、必要に応じ危機管理委員会を開催「マイナス情報ホットライン」の常設によるリスク情報の早期入手と対応体制を確保



コンプライアンス

コンプライアンスへの取り組み

Compliance

1 コンプライアンスにおける基本的な考え方

イノアックでは、コンプライアンスとは、法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理感を持って行動することであると考えています。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待にこたえていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。そのためイノアックでは、社内規程等の整備にとどまらず、従業員へのコンプライアンスの意識を高めるために営業担当者、調達担当者、新入社員、中途入社社員への法務研修等の充実を図っています。

Compliance

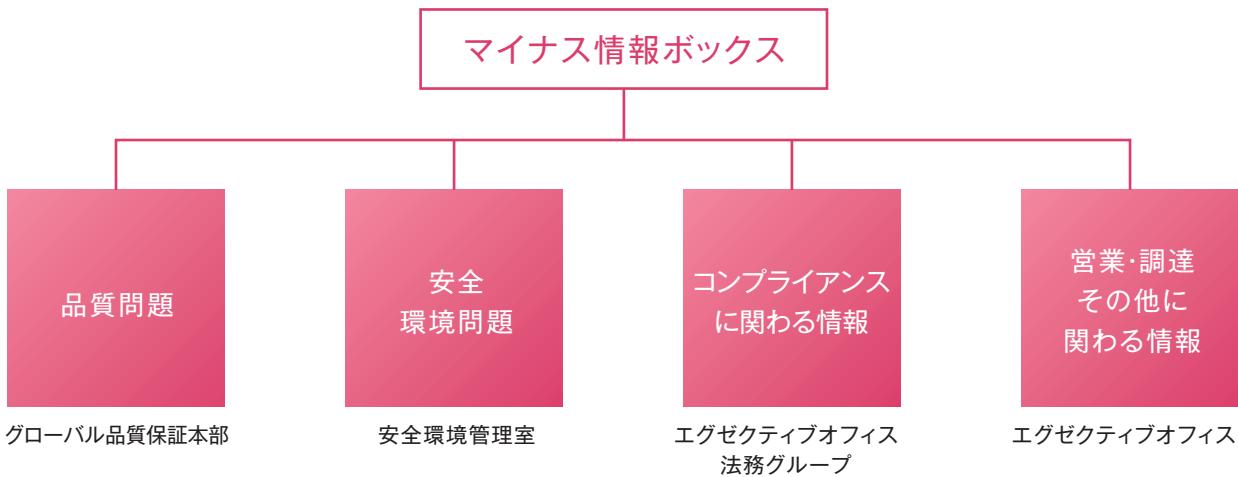
2 推進体制

イノアックは、2008年に「コンプライアンス管理規程」を定め、社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンスへの意識を高めるための体制作りを進めています。この取り組みの一環として、2010年からは、グループ会社へのコンプライアンス徹底の取り組みもスタートしました。イノアックの社内手続規程を、グループ会社にも適用可能なものへ改訂をおこなうとともに、あらためて各グループ会社への周知徹底を行いました。これによって、各グループ会社においてもコンプライアンスの順守を徹底することができました。

Compliance

3 相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのためイノアックでは、法務グループを相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けることがないよう体制を整えています。



コンプライアンスに関わる情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には迅速に対応し問題の拡大を防ぐため、マイナス情報ボックス(受付窓口)を設置しています。

2 SOCIAL REPORT

社会性報告

調達

調達基本方針

- 1) グローバル調達活動の推進
イノアック国内外の拠点を活用したグローバルな調達活動と、パートナー関係の強化を図ります。
- 2) 法令・社会規範及び社内規程の順守
法令・社会規範及び社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。
- 3) 公平・公正で誠実な調達活動の推進
お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。
- 4) 環境・人権に配慮した調達
イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行います。環境・人権等、社会問題の原因となりうる原材料の使用については、影響に配慮した調達活動を行います。
※紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)問題への取り組み等
- 5) お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築
お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、技術力及び品質の維持・向上に努めます。

グローバル拠点における最適調達の実施

原材料、部材等の現地調達を通じて事業拠点の所在する国々に貢献し、最適品質・最適価格に加え、長期的な取引を念頭に入れたお取引先様との良好なパートナーシップを目指します。またグローバル生産に対応した、より戦略性の高い購買活動を推進します。

お取引先様との双方向コミュニケーション強化

年2回、お取引先様約100社にご参加いただき調達連絡会を実施しています。

内容は、生産情報の展開や品質の取り組み、コンプライアンス活動、安全活動、機密管理、有害物質管理など、継続テーマについてです。その内容の充実を図ると共に、経済情勢・今後の動向など情報の共有化を行い、お取引先様との連携を深めています。

また、品質向上の為の改善及びその意識の向上などをテーマとして、勉強会・講演会を年2回、改善事例発表会を年1回開催し、企業レベル向上のための活動を行っています。



グリーン調達活動の推進

イノアックでは、地球環境に配慮した調達活動推進のため、イノアックグループの製品を構成するすべての部材・材料及び製造時に使用される材料の調達において「イノアックグリーン調達基準」に基づき、含有禁止物質の不使用及び管理物質の管理・削減を継続的に実施しています。

また、お取引先様の皆様には、持続可能な社会の構築に向けて、イノアックグリーン調達へのご理解とご協力をお願いするとともに、これまでの欧州ELV指令、RoHS指令等に加え、欧州REACH規制等新たな環境規制に対する確認分析等の取り組みを一体となって進めています。



従業員に対する取り組み

人材教育

グローバル人事総務部では、イノアックグループの従業員の能力を高め、成長できる場を与えていくための『社員教育』を企画・実施しています。『教育』を生涯学習の一環として位置づけ、従業員の持つ特性や能力を引き出し、あらゆる場で活かせる職場づくりと定義しています。そして教育研修を一元化した『イノアック教育体系図』を整備しています。これにより、イノアックの従業員はどの職位でいつ頃どんな教育を受けられるかを事前に知ることができます。教育体系は、原則として『階層別教育』と『部門別専門教育』に大別されています。階層別教育では、人間的魅力、社会人としての常識、精神面など心の自律を目指す教育(人間性教育)と将来必要とされる能力育成を目指す教育(能力アップ教育)から構成されています。また部門別専門教育は、業務に必要な基礎知識や専門知識、技能の習得を目指す教育を行います。

グローバル教育

イノアックグループは、海外に50を超える事業所(工場、事務所)があります。今後ますます進むグローバル(ボーダーレス)化に対応する為に、イノアックでは『グローバル人材育成』にも力を入れています。『グローバルマインドセットセミナー』や『海外研修』・『海外語学留学』などを新入社員の時から実施しています。人事ローテーションは、国を問わず頻繁に行われています。

海外研修(中国研修)

イノアックでは、新入社員(大卒者)全員を対象に、入社1ヶ月後から約1ヶ月間、中国で海外研修を行っています。2012年度は、20名の新入社員が5月8日~6月9日までの5週間、中国で研修しました。

2012年 新入社員中国研修 感想

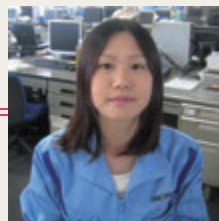


グローバル技術開発本部
ウレタン技術部
軟質スラブウレタンG

山口 真和

この中国研修を通じて、言葉だけではない日本との違いを、現地スタッフとの触れ合いなどを通じて体感しました。

社会のグローバル化に対応し海外で仕事をするためには、その国の価値観を理解することが必須です。そしてその土地に合った仕事のやり方を選択し、製品の仕様なども必要に応じて変更することが必要だと感じました。この研修を通じて学んだ事は、今後の仕事にも自分の人生にも活かしていける貴重な経験となりました。



グローバル技術開発本部
ウレタン技術部
軟質スラブウレタンG

江越 春香

中国研修は私にとって大変良い経験となりました。中国の様々な文化や人柄に触れたことによってグローバル展開の難しさを実感しました。中国と日本では、仕事に対する考え方やニーズが大きく異なることを知ったからです。また、発展した都市部や大規模な市場など、日本とは違う、エネルギーでハイスピードな発展の様子に、大変驚きました。今後、私もグローバルに活躍できるよう、この経験を活かして、業務に励んでいきたいと思いました。

2 SOCIAL REPORT

社会性報告

両立支援のための制度

従業員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。育児休業規程では、子が2歳に達するまで育児休業取得可能とし、子の看護休暇は1人の場合は5日間、2人以上の場合は10日間の特別休暇(有給)を付与しています。また、最長3年間(子が小学3年生までが対象)取得可能な「育児短時間勤務制度」を導入しています。ほかに、保育園・幼稚園・学校・自治体の家族に関わる行事参加、介護を必要としている人の病院・介護施設への付き添い等の理由で休暇を取得した場合、優先的に休暇を取得できるファミリーサポートホリデー休暇制度やフレックスタイム制度、配偶者出産時に取得できる5日間の特別休暇(有給)を設けています。

[両立支援制度一覧]

配偶者出産休暇	1980年以前	母性健康管理の措置に関する規程	1998年
フレックスタイム制実施	1990年	半日有給休暇取得制度	2000年
女性再雇用規程	1990年	ファミリーサポートホリデー休暇	2005年
介護休業規程	1990年	子の看護のための休暇	2005年
ハッピーホリデー休暇	1991年	育児休業規程改訂(休業期間延長)	2005年
育児休業規程	1992年	育児短時間勤務制度施行	2008年

[育児休業等取得者延数]

	2008年		2009年		2010年		2011年		2012年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
育児休業(人)		16		17	1	14	1	13		17
育児短時間勤務(人)				8		11		12		16

※2010年 初の男性育児休業取得

両立支援の制度を整える事により、2010年に初めて男性が育児休業を取得しました。

女性社員の登用

イノアックグループでは、女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうために積極的に女性社員の活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性社員の管理職登用もその一環として挙げられ、現在8名が管理職に就いて各分野において活躍しています。

[女性管理職昇格者数]

2002年	2007年	2008年	2009年	2011年	2012年	合計
1	1	2	2	1	1	8人



イノアックグループ安全活動

1

イノアック基本方針

人間愛を基本として、全員参加の安全・防災活動を推進し、安全に強い人づくり、公害ゼロ・災害ゼロの快適職場づくりを図る。

2

イノアック安全・衛生月間活動

- 厚生労働省の運動行事に併せた活動
- 過去の災害に学んだ月次重点実施事項(毎月)
- 職場のルール見える化→職場・個人ルール掲示

3

全社安全衛生委員会の開催

- 社長を委員長とした中央安全衛生委員会を年4回と、役員点検年2回実施(主要工場)
- 実担者安全衛生委員会を年7回開催
- 各工場安全衛生委員会を月1回開催

4

健康増進に向けた取り組み

- 産業医の毎月の工場巡視、安全衛生委員会での指導を月1回開催
- 相談窓口設置によるメンタルヘルスサポートの実施
- 事業所内の分煙化の徹底
- 快適職場作りとして、管理区分低減活動

5

リスクアセスメント活動

- 化学物質のリスクアセスメント活動への展開
- イノアック各工場へ横展開



防災活動

1

大規模地震災害減災対応

- 1) 建屋・設備・地震減災対策
 - 人命第一を基本とし建屋(震度6強)補強工事、設備、外構、什器の転倒・落下対策と出火防止対策
 - 重点設備:受電・ボイラー・ガス・原料タンク・危険物の停電対応・危険物流出防止
- 2) 地震発生時減災への備え
 - ハード・ソフト見直しと訓練
(緊急連絡網・避難誘導・備蓄品・防災資材・通信等の設備)
- 3) 地震・災害発生後の対応
 - 発生後対応訓練
(初動体制・復旧本部立上げ・避難訓練・連絡網整備など)

2

火災・風水害対策

- 1) 生産現場の火災・防爆予防
 - 重点設備(加熱炉・集塵機・火災発生設備)の見える化と日常点検・管理強化
 - 危険物・可燃物管理の徹底・危険物可燃物取扱職場の見える化と防火対策
 - 火気使用工場の防火、防爆体制の確立で安全作業の徹底
- 2) 風水害対応体制の確立
 - 防災機器の設備と管理体制の強化
 - 防災関連設備、危険物管理状態の定期監査とパトロールの実施

2 SOCIAL REPORT

社会性報告

社会・地域貢献活動

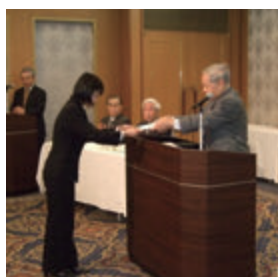
イノアック・イノベーションサポート

イノアックでは、ささやかながら地域社会への貢献の一助として文化支援活動「イノアック・イノベーションサポート」を永年にわたり続けています。内容はバレエやオペラ公演への協賛など、多岐にわたっています。

このような各種イベントへの協賛等により、文化振興に貢献するだけでなく、社会とイノアックの結びつきを一層深めるきっかけとなることと信じています。今後も積極的な支援活動を続けていきます。



1991年	第1弾:	つがいけサイクル'91	2004年	第22弾:	ローマ・イタリア歌劇団オペラ「椿姫」 〈東京公演・名古屋公演〉	
	第2弾:	マジックショー「スノービーの不思議な世界旅行」		第23弾:	ハンブルクバレエ「眠れる森の美女」 〈東京公演〉	
	第3弾:	全日本オフロードサイクリングIN梅池		2005年	第24弾:	チェコ国立ブルノ歌劇場「カルメン」 〈名古屋公演〉
1992年	第4弾:	ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団 「ウィンナ・ワルツの調べ」		2006年	第25弾:	ブラハ国立劇場オペラ 「フィガロの結婚」 〈東京公演・名古屋公演〉
	第5弾:	試写会「ザ・スタント／アメリカ物語2」		2007年	第26弾:	ハンガリー国立ブダペスト・ オペレッタ劇場「こうもり」 〈東京公演・名古屋公演〉
	第6弾:	'92スタジアムトライアル		2008年	第27弾:	チェコ国立ブルノ歌劇場 「タンホイザー」〈東京公演〉 ウィンナーワルツ・オーケストラ 〈名古屋公演〉
1993年	第7弾:	ウィンナワルツ・オーケストラ		2009年	第28弾:	レニングラード国立バレエ団 「眠れる森の美女」〈東京公演〉 レニングラード国立バレエ団 「ジゼル」〈名古屋公演〉
	第8弾:	マウンテンバイクフェスティバルINダイナランド		2010年	第29弾:	ニューイヤースペシャルコンサート コルツ・ウィーン〈東京公演〉 ウィーン放送交響楽団〈名古屋公演〉
	第9弾:	スタジアムトライアル		2011年	第30弾:	ウィンナー・ワルツ・オーケストラ 「宮殿祝賀コンサート」 〈東京公演・名古屋公演〉
1994年	第10弾:	ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ		2012年	第31弾:	ウィーン交響楽団 ヨハン・シュトラウスアンサンブル〈東京公演〉 ウィンナー・ワルツ・オーケストラ 「宮殿祝賀コンサート」〈名古屋公演〉
	第11弾:	イノアック IRCカップ				
1995年	第12弾:	レニングラード国立バレエ「白鳥の湖」				
	第13弾:	イノアック IRCカップ				
1996年	第14弾:	ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場 「メリーウイドウ」				
1997年	第15弾:	レニングラード国立バレエ「ドン・キホーテ」				
1998年	第16弾:	レニングラード国立バレエ「眠りの森の美女」				
1999年	第17弾:	ウィーン・カンマー・オペラ「こうもり」				
2000年	第18弾:	レニングラード国立歌劇場管弦楽団 「華麗なるバレエ・ワルツの祭典」				
2001年	第19弾:	ブラハ国立劇場オペラ「魔笛」 〈東京公演・名古屋公演〉				
2002年	第20弾:	ハンガリー国立歌劇場「こうもり」〈東京公演〉 ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場 「チャルダッシュの女王」 〈名古屋公演〉				
2003年	第21弾:	ポーランド国立歌劇場 「トゥーランドット」 〈東京公演・名古屋公演〉				



財団法人イノアック国際教育振興財団

1987年、グローバルに活躍する人材の育成を目的とした「イノアック国際教育振興財団」を設立しました。1950年代からグローバル展開を推進してきたイノアックは、世界に通用する市場価値を持った人材育成の必要性を痛感してきました。

そして財団設立以来、中国、韓国をはじめ様々な国、また日本の学生に奨学金を給付し、海外留学の支援を行ってきました。支援を受けた学生の人数は250名を超えました。こうした人材が将来世界を舞台にはばたくことは、イノアックの大きな喜びです。



職場体験・工場見学活動

イノアックでは毎年各事業所で職場体験の受け入れを行っています。安城事業所では愛知教育大付属特別支援学校の学生が、西濃事業所・南濃事業所では地元の中学生が職場体験を行いました。また南濃事業所・八名事業所では高校生も職場体験を行っています。この活動は主に各事業所の地元の学校からの要望により長年実施しており、学生には生産現場にて軽作業を体験してもらっています。

また地元小学校からの要望により、工場見学も実施しています。今年は西濃事業所に91名の小学生が工場見学に訪れました。



交通安全活動

地域交流活動の一環として安城事業所と桜井事業所では、毎月0のつく日(10日、20日、30日)の平日の朝に交通安全の啓蒙活動を行っています。事業所の周辺の交差点や、駐車場出入口付近に社員が交代で立ち、シートベルトの着用やスピード注意、一旦停止等の呼びかけをしています。この活動は事業所でドライバーズクラブを立ち上げた時から続いており、社員の交通安全意識の向上を目的に行われています。

また桜井事業所では、交通安全週間の際に、近隣会社及び近隣町内会と共同で事業所付近の信号交差点にて交通当番も行い、交通事故の防止に取り組んでいます。



安城事業所



桜井事業所

2 SOCIAL REPORT

社会性報告

お客様との関わり

お客様満足度アップを目指した営業活動

イノアックグループの営業部門は、「暮らしをもっと豊かにしたい」という企業理念に基づき、お客様満足度の向上を全ての行動規範として活動を続けています。拡大するグローバルカスタマーの事業展開への追従・スピードアップを会社方針に積極的な展開をしています。お客様の声を直接お聞きするための「顧客満足度アンケート」は、私どもの活動に一つの指針を与えています。これからも、変化し続けるお客様のニーズにグローバルかつ迅速にソリューションを提案し、お客様との強い信頼関係を築いていきます。

お客様からの評価・受賞

イノアックでは、世界のお客様にご満足いただける地球環境に配慮した製品の供給を目指しています。国内においては、コスト協力と新製法・新材料の積極的な開発を評価されての受賞や、海外の拠点においても品質優秀賞を受賞するなど、世界のお客様より評価をいただいています。今後ともQuality(品質)・Cost(コスト)・Delivery(デリバリー)・Safety(安全性)でお客様より高い評価を得られるように体制の強化に継続して取り組みます。

品質向上を実現する取組み

イノアックでは品質向上を実現するために、従来のQC活動の他に2007年より品質革新プロジェクト活動に取り組んでいます。

■各事業所での根本的な品質改善を意図した品質革新プロジェクトの実行

すでに実行されている品質レベルを日常的、持続的に改善する活動に加えて、各事業所で根本的に重要な品質属性(製品の歩留まり等)を取りあげてその圧倒的レベルアップを図るべく事業所内の事業責任者、品質保証、製造、技術スタッフに本社グローバル品質も加わり全社的視点からの検討を図っています。

■現状把握、その分析から大きな効果を得ることができるための改善仮説の設定

実験等を粘り強く実行していくアプローチをとっています。事務局には日本人のみでなく、中国人スタッフも参加し、中国他海外事業所への展開も図っています。

品質革新プロジェクトの個別活動紹介

■グローバル事業展開の加速に対応した人材育成

海外拠点の人材を日本で受け入れ、品質を基軸とした教育・訓練を実施しています。また国内の人材にも同様の品質教育・訓練を実施し人材を育成する事で、海外拠点を含めたイノアックグループ内の品質管理の標準化へと繋げています。

■品質総点検

国内生産拠点はもちろん、海外に広がる生産拠点に対しても、品質管理のスペシャリストによる4M視点で品質保証レベルの点検・指導を実施し、グローバル品質力の向上に努めています。

■工程管理のIT化

各工程で作成している日報を手書からタブレットPCでの入力へとIT化を進め、工程で発生している不具合を迅速に把握し、適切な処置のスピードアップを図る仕組み作りを進めています。また得られたデータを解析し傾向を把握することで、不具合発生のも未然防止に繋げています。



イノアックは、人と自然との共生をめざします。

資源の有効的利用、環境と調和するテクノロジーや環境を考慮した製品の開発。イノアックは多角的視野で環境を大切に
する企業活動を推進しています。また、イノアックでは環境に対する企業としての理念を掲げ、企業活動の指針としての
環境方針を策定し、社会的な課題である環境問題に取り組んでいます。

環境理念

イノアックは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切にする企業活動を通じて、かけがえない地球の自然環境を尊重し、豊
かな暮らしやすい社会の実現に貢献します。

環境方針

1

CO2排出の低減活動を実施するとともに、
低炭素社会構築に貢献できるような製品
開発に努めます。

2

環境関連の法規制及びその他要求事項を順
守し、社会に信頼される事業活動をおこな
います。

3

省資源、廃棄物削減などを目標とし掲げ、持
続可能な社会に貢献できるよう努力します。

4

環境影響の可能性のある化学物質の管理を
おこない、環境保全に取り組みます。

5

良き企業市民として、地域社会の環境保全活
動を通じて、社会に貢献します。

6

環境マネジメントシステムを推進し、環境保
全の維持向上と継続的な改善を図ります。



3 ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告

環境への取り組み

ISO14001は環境経営(環境パフォーマンス)の質的向上を実現する為の重要なシステムです。イノアックではこのISO14001のマネジメントシステムを活用してそれらの整備と充実を図り、PDCAサイクルを活用して、環境改善活動を実施しています。

環境組織体制

環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で環境管理責任者が環境に関する統括管理を行い、環境委員会の委員会活動で会社全体での環境活動を行っています。更なる効果的な環境活動を推進する為、産業廃棄物と省エネルギーについては専属部会を設置し、より一層の低減推進をはかるとともに、横軸の連携もとって環境マネジメントを推進しています。



2012年度主要活動総括

イノアックにおける2012年度の主な環境取り組み結果は、下記の表のようになりました。

取り組み項目	2012年度活動方針・目標		2012年度活動実績	結果
廃棄物削減	工場系サイトにおける廃棄物削減	3,497t以下	3,838t 生産金額原単位:7%減(11年比)	△
	事業所系における廃棄物削減	1,889kg以下	1,616kg	○
エネルギー使用量削減	工場系サイトエネルギー使用量削減 (原油換算にて)	26,548kl以下 生産金額原単位:5%減(10年比)	29,837kl 生産金額原単位:6.2%減	△
	事業所系サイトエネルギー使用量削減 (原油換算にて)	169kl	103kl	○
よりよい環境製品の開発	軽量化による省資源化による環境貢献		テーマ開発実施	○
環境コミュニケーション	社会環境報告書発行		発行	○

※主要活動総括の集計対象事業所は次の通りです。

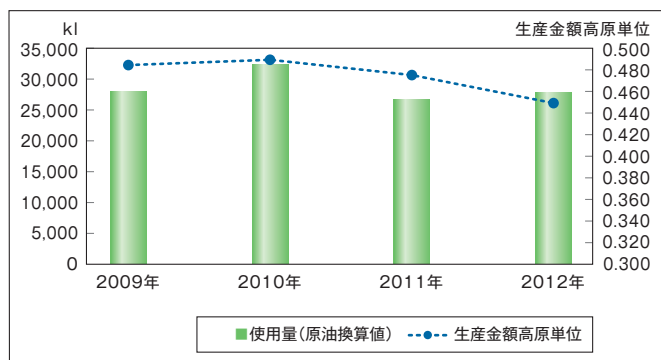
〔(株)イノアックコーポレーション〕 安城事業所、桜井事業所、船方事業所、南濃事業所、八名事業所、本社(名古屋)、東京支店、大阪支店、池田工場、池田第2工場、大野工場

〔(株)イノアック住環境〕 南濃工場、大野工場



エネルギー使用量削減

[エネルギー使用量(原油換算値)]



※今回の報告から、西濃事業所(池田工場、池田第2工場、大野工場)を追加しています。

イノアックは、従来から地球温暖化防止のため、CO2排出量の削減や、省エネ推進をしてきました。2012年は目標数値をCO2換算から、エネルギーの原油換算に置き換え、削減活動を推進してきました。具体的には、2011年同様に6月～9月の夏期省エネ目標及び12月～翌年2月を冬期省エネ目標として特別設定しました。また、外部専門業者による蒸気・エアのリーク調査とその対応、コンプレッサーのインバーター化などを実施しました。その結果、原油換算値で見た場合、2011年比で約7%増加していますが、生産金額高原単位(原油換算値/生産金額)で見た場合、2011年比では4%改善されています。

取組事例

2012年省エネ対策実施事項

- 井戸水の利用(建物散布等)
- 老朽化COMPの更新(20年以上)
- LED照明の導入(随時)
- 建物断熱(屋根断熱、OAフロアー、ペアガラス)
- 老朽化空調機の更新(20年以上)
- 漏れ対策(蒸気・エア)
- ポンプ類の省エネ(温度・流量制御・圧力等)
- 不要配管の撤去(蒸気・エア)
- 生産・試作ラインの稼働調整
- 会議室の利用制限
- 空調温度の遵守推進(28℃)
- 扇風機と空調機の併用利用
- OA機器の統合
- 事務所の統合
- サマーエコスタイルキャンペーン



サマーエコスタイルキャンペーン



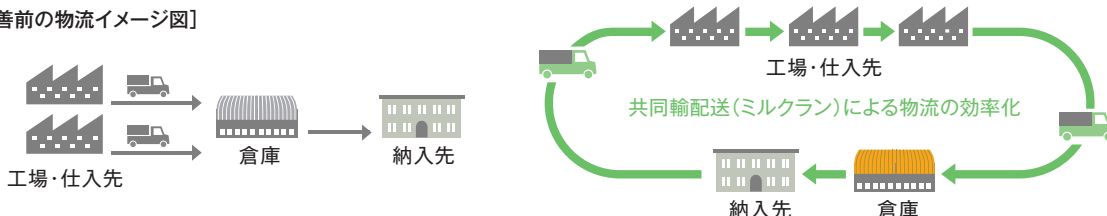
イノアックでは節電対策、地球温暖化防止策の一環として、サマーエコスタイルキャンペーンと題してキャンペーンを実施し、従業員の省エネ活動の啓蒙を働きかけています。

◀2012キャンペーン

グリーン物流へのアプローチ

グリーン物流へのアプローチとして、共同輸配送(ミルクラン)、鉄道・海運へのモーダルシフト、物流拠点集約など物流改善活動を行ない、エネルギー使用の合理化及びCO2排出量の低減など物流からも環境改善に取り組んでいます。

[改善前の物流イメージ図]



3 ENVIRONMENTAL REPORT

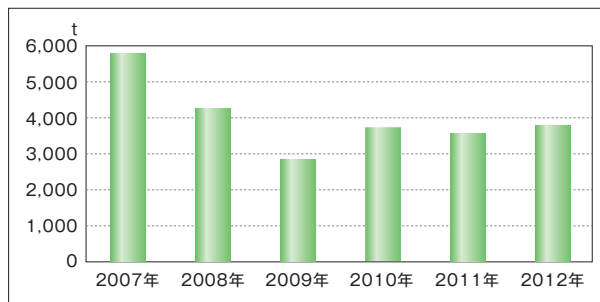
環境報告

廃棄物削減活動

廃棄物削減活動については、全社廃棄物削減会議を中心にして、廃棄物削減事例の報告及び横展開と、廃棄物の発生源対策として、再生材料インライン使用や、梱包用品など副資材の変更や削減、貨物の流通のために使用した木パレット等の返却徹底、分別リサイクルによる処理量の削減を実施しています。

2012年は2011年比で処理量が3%増加していますが、生産金額高原単位(処理量/生産金額)で見た場合、2011年比では7%改善されています。

[廃棄物処理量]



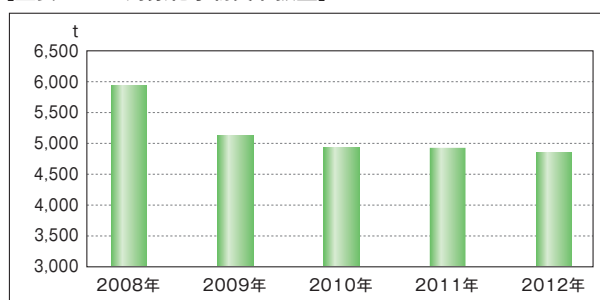
※今回の報告から、西濃事業所(池田工場、池田第2工場、大野工場)を追加しています。

環境負荷物質低減活動

イノアックではウレタンフォームの原料であるm-トリレンジイソシアネートや塗装工程におけるキシレンやトルエンなど、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」で定められたPRTR対象化学物質を使用しています。それら対象化学物質は、非含有タイプへの切り替えや収率改善による使用原料のロスを減らし、削減を行っています。主要対象物質の取扱量は徐々に減ってきており、2012年度は2008年度と比較して約14%の取扱量を削減しました。

今後も、継続して製品の収率改善、不良率の低減、非含有タイプへの切り替えを一層進め、対象物質の削減を進めていきます。

[主要PRTR対象化学物質取扱量]



※対象工場を合計して、1t以上のPRTR対象物質について記載
 ※今回の報告から、西濃事業所(池田工場、池田第2工場、大野工場)を追加しています。

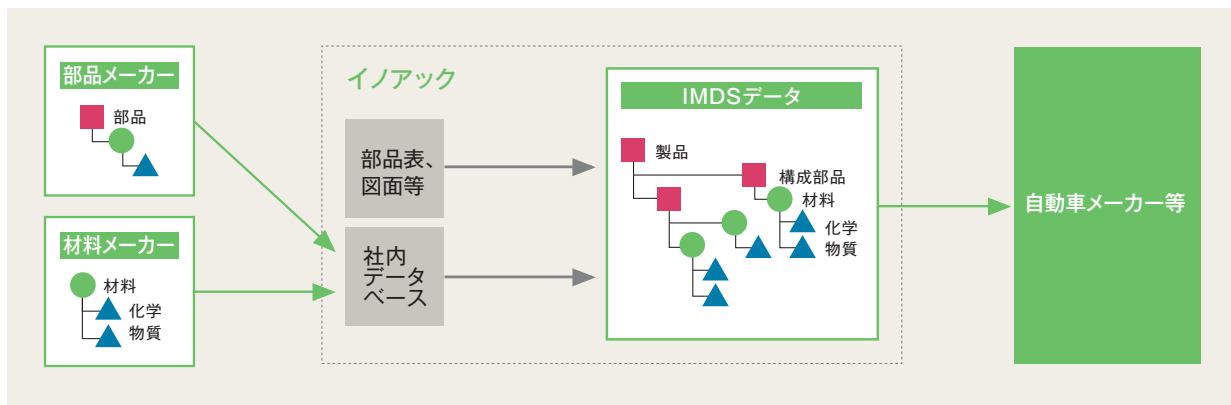
化学物質の情報管理

■IMDSの利用促進

イノアックは、ウレタン、ゴム、樹脂の3素材を利用した成形品製造メーカーとして、とくに主力となる自動車部品分野では*IMDSを利用した化学物質情報の登録および顧客への報告を行っています。2003年2月にIMDSを導入して以来、サプライチェーンを通して必要情報を収集しIMDS登録を行なう管理体制を整えています。

IMDSの有効利用、信頼性の確保、効率化のために、各製造部門の生産技術の管理者および担当者を対象に環境管理部門主催による月1回の社内ワーキンググループ活動を継続的に実施し、情報や課題を共有化し問題解決に努めています。

[イノアックにおけるIMDSの情報収集～報告の流れ、化学物質管理の仕組み]



■社内データベースの構築

サプライチェーンを通しての調査で集められた、購入部品や原材料に含まれる化学物質の情報を一元管理する社内データベースを開発し2007年末より運用しています(自動車部門)。

IMDSへの登録や環境負荷物質の含有調査の際に必要な各種情報を素早く取り出すことや重複調査を回避することができるため作業の効率化が実現され、さらには報告される内容の精度の向上にも貢献しています。

■欧州REACH規制への対応

イノアックは、自動車部品を主とする成形品以外に、ウレタン、ゴム等の素材も各種産業用部品として生産しており、各素材の原料まで含めた多岐にわたる調達品の化学物質情報の把握が必要となります。そのため環境管理部門が*REACH規制等の環境関連法規に関する最新情報を都度社内関係者へ配信し、最新の高懸念物質の情報等を的確に把握・共有化するとともに、購入原材料に含有する化学物質の情報収集を行っています。

■グリーン調達基準の制定・運用

各種法規や顧客等により規制される化学物質や、含有量を把握して削減に努めるべき化学物質などをリスト化してグリーン調達基準として調達先に提示し、購入する原材料に含有する化学物質情報の把握に利用しています。またREACH規制等の最新法規への対応も考慮した見直しを行いながら運用しています。

*IMDS(International Material Data System):欧州ELV指令への対応に端を発して開発された自動車業界における材料・化学物質情報を伝達・収集するインターネットを利用したデータベースシステム。

*REACH(Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals):EUで2007年6月1日に施行された化学物質管理に関する法規で、成形品に対しても含有する高懸念物質情報の伝達等の義務が課せられるなど幅広い管理・対応が求められる。

3 ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告

環境対応製品事例

ウレタン・ゴム・プラスチックと新素材/複合素材。長い歴史の中で培われた、高分子化学技術から生まれた多様な素材です。イノアックでは、限りある資源を有効活用する技術、環境に配慮した新素材の研究開発に、さらに力を注ぐことで、持続可能な地球環境に貢献するとともに、素材による製品・ソリューションサービスを通じて新たな価値を提供し、みなさまの豊かなくらしに貢献していきます。

ウレタンゲル素材を使用したチャイルドシート用クッション材

イノアックでは、ゲル状ウレタンエラストマーのG-elasto®を使用したチャイルドシート頭部用のクッション材を開発・提供しています。柔軟性に優れ、高い衝撃吸収性を持ったG-elasto®をクッション材として使用することで、走行中の振動や衝撃を吸収することが可能となり、頭部への負担を軽減し、赤ちゃんの車内環境を向上することが出来ます。

また、以前は生産工程で有機溶剤を使用していましたが、新たに、溶剤を使わない生産方法を確立することで、生産時の作業環境を改善し、大気環境に配慮したものづくりを実施しています。

※®はイノアックコーポレーションの登録商標です。



熱可塑性CFRPを用いた長下肢用装具

熱可塑性CFRPとは、炭素繊維織物に熱可塑性の樹脂を含浸させた、炭素繊維強化プラスチックです。鉄と比べて比重が1/4、重量単位当りの強度は鉄の10倍、また金属を使用していないため錆びないなどの特徴があり、義肢装具では金属代替として使用され始めています。

さらに熱可塑性の樹脂を用いることによって、サイズが合わない、当たりがきついなどの不具合が生じた場合、加熱による修正や微調整が可能です。従来の金属製装具に比べて軽量化になることで、患者や医療従事者、装具技師などの負担を軽減するとともに、簡易的に調整が可能な熱可塑性CFRP製の装具が今後普及されるよう、さらに開発を進めていきます。



熱可塑性CFRPの単体部品



バソテクト®

バソテクト®はメラミン樹脂を素材とした軟質フォームです。一般的には「水だけで汚れが落ちるスポンジ」としてキッチン等でお馴染みの素材です。軽量で耐熱温度が高く(150℃)燃えにくい、また微細なセル構造により優れた断熱性・吸音性を有するため、ウレタンフォームでは対応が難しい炊飯器、電気ポットの断熱材、吸音材として製品に展開しています。また、一般的なガラス繊維断熱材と比較し、約1/2の重量で、同等の性能を発揮するため、鉄道車両の吸音、断熱材、自動車エンジン周りの吸音、断熱材として快適な居住空間を提供しています。今後は土木、建築分野にも優れた素材の提供を通じ、環境に優しい製品の開発に貢献して行きます。



Copyright : BASF



◀炊飯器での使用例

※®はBASF SEの登録商標です。

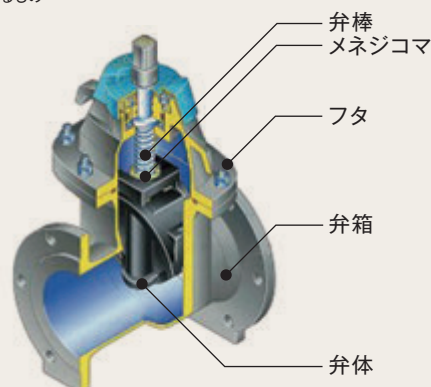
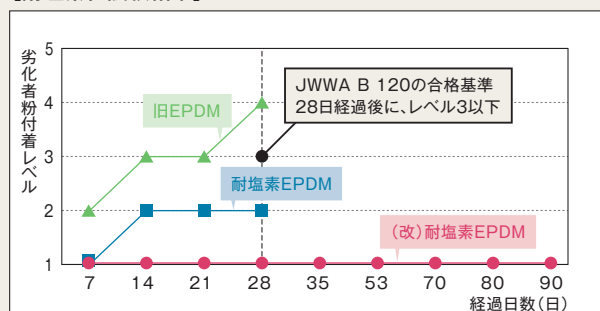
ソフトシール弁(上水道管仕切弁)

水道用ソフトシール仕切弁は、耐腐食性に対する信頼度が高く、水道管路用として最も多く使用されているバルブです。国内水道施設での使用実績から、その耐用年数の長さは証明されていますが、ここ最近になって、水道水中の残留塩素によりゴム部品の表面が劣化するという事例が報告され、耐塩素性の高いゴムを使用したソフトシール弁(ゴム弁体)が必要とされていました。

新規開発した耐塩素性EPDMゴム(エチレンプロピレンゴム)は従来規格のJWWA規格(日本水道協会規格)を満足させながら耐塩素性を向上させる事に成功しました。このゴム材料を使用することにより、特に残留塩素濃度等の厳しい条件下で使用した場合に、*ライニングゴムの耐劣化性能を大幅に改善することが可能となり上水道管仕切弁としての長寿命性能を実現する結果となりました。

*ライニングゴム:配管などの金属面にゴムシートを接着させ金属の防食耐磨耗などの用途で使われるもの

[耐塩素性試験結果]



3 ENVIRONMENTAL REPORT

環境報告

環境リスクマネジメント

環境法規制の順守

イノアックでは、事業活動に関連する環境法規制を特定し、日常管理を行っています。各事業所において、環境マネジメントシステムの一環として、騒音や産業廃棄物処理など法に基づく適切な対応が出来ているか、監視・測定及びその評価で、環境汚染の未然防止など環境リスク管理を行っています。

今後も引き続き企業倫理にのっとり、環境法令の順守の徹底はもとより自治体との環境保全協定等についても、厳正に順守をしていきます。

[当社の事業活動における主な環境関連法規制一覧]

大気	騒音・振動・悪臭	省資源・循環	一般・その他
<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染防止法 自動車NOx・PM法 ダイオキシン類対策特別措置法 	<ul style="list-style-type: none"> 騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ法 容器包装リサイクル法 フロン回収・破壊法 PCB処理特別措置法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 	<ul style="list-style-type: none"> 工場立地法 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法) 電波法 電気事業法
水質・土壌	化学物質	防災	
<ul style="list-style-type: none"> 水質汚濁防止法 浄化槽法 下水道法 土壌汚染対策法 	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質排出把握管理促進法 毒物及び劇物取締法 	<ul style="list-style-type: none"> 消防法 高圧ガス保安法 	地方公共団体の条例等については割愛一部略称法にて表記

環境内部監査

環境マネジメントシステム運用状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内で規定された監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上がはかられているかを確認しています。また、運用状況が不適切な組織に対しては、追加監査を実施し適切な活動になるよう是正を行っています。

外部環境審査

イノアックの環境マネジメントシステムの運用がISO14001(2004年度版)に従って適切に行われているかを確認するため、社外の審査登録機関である財団法人日本品質保証機構(JQA)に審査を依頼しています。

2012年更新審査の結果は、改善指摘事項は発見されずシステムが維持されていると判断されました。総合所見としては、本来業務の活動(環境貢献活動)をもっと効果的におこなうことや影響を及ぼすことができる環境側面に対する理解不足などが挙げられました。

緊急事態の訓練

各事業所では、ISO14001のマネジメントシステムにより、事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、火災や設備などによる化学物質(油類・溶剤等)の漏洩など環境汚染の予防及び拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。

安城事業所では、2012年10月23日に安城消防署員の方および他社の安全担当者の方に自衛消防団の消火活動を見て頂き、講評を頂いています。

その他各事業所においても事業所毎や部門毎に非常時の訓練をおこない、有事に備えています。





環境教育・環境啓蒙

社内教育体制

イノアックでは、企業における環境活動を高める為環境教育を実施しています。

[イノアック教育体系(環境関係分)]

集合研修	一般教育	法務関係	環境負荷物質の基本
		ISO関係	ISO14001規格解釈コース ISO14001内部監査員育成コース
	専門教育	法律関係	廃棄物処理法と排出事業者の責務
部門研修 (ISO14001に沿ったもの)		環境方針の周知 著しい環境側面に応じた教育	

年度表彰(環境賞)

イノアックでは、環境活動に貢献する活動をおこなった事業所や部門に対して、年度表彰という形で評価して表彰をおこなっています。

[環境賞の受賞内容(直近のもの)]

年度	部門(事業所、会社)	概要
2012年	ABC INOAC Exterior Systems	環境改善活動(電気、廃棄物、VOCなど総合的に低減)
2011年	Bangkok foam co.ltd	ボイラーの水温上昇の装置作成
2010年	BIP(フォームシステム第1事業部)	フォームライトSL(ノンフロンスプレーシステム)の拡販
2009年	南濃事業所	LPG貫流ボイラー導入による 環境対策と業務改善

※2012年アメリカ、2011年はタイの海外が受賞

事業所周辺の清掃活動

各事業所では事業所周辺の清掃活動をそれぞれ実施しています。



エコキャップキャンペーン

桜井事業所では、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ運動に参加しており、ペットボトルのキャップを回収し、世界のこどもへのワクチン提供に貢献しています。

キャンペーンポスター
(出典:エコキャップ推進協議会)



エコキャップ回収ボックス

ライトダウンジャパン2012

イノアックは、地球温暖化防止策として環境省が推進している「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加しています。2012年度は夏至(6/21)と七夕の日(7/7)にグループ会社を含めた10事業場で実施しました。



▲ 本社(名古屋)ネオンサイン ▲ 安城事業所正門看板 ▲ 桜井事業所正門看板 ▲ イノアック住環境名古屋本社建屋照明



お問い合わせ先

■エグゼクティブオフィス広報グループ

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
TEL : 052-581-1086 E-Mail : KOHO@inoac.co.jp

■グローバル品質管理部

〒446-8504 安城市今池町3丁目1番36号
E-Mail : GQ_system@inoac.co.jp

株式会社 **イノアック コーポレーション**

<http://www.inoac.co.jp>